

SDGs新聞

三菱地所レジデンス株式会社

まちの生き物たちがあぶない！

SDGsラジオを読んでみよう！

「在来種・外来種」という言葉を聞いたことはありますか？「在来種」とは、昔からその地域にすんでいる生きものや植物です。

でも今、在来種がくらしにくくなっています。その原因のひとつが、

「外来種」というほかの国や地域からきた生きものが増えていることです。

アメリカザリガニやブラックバスもその一種で、外来種が、在来種のごはんやすみかをうばってしまうことがあるんです。

そこで、マンションなどの住まいをつくる会社「三菱地所レジデンス」では、生きものたちのすむ場所を守るために

「バイオネットイニシアチブ」という取り組みをしています。たとえば、マンションの周りに木を植えるとき、

そのまちの在来種の木を選んで緑いっぱいの場所をつくっています。生きものや植物にもやさしく、マンションをつくっているんですよ。

生きものや植物を守るために、みなさんにもできることがあります。まずは、自分のまちにいる在来種を、さがしてみましょう。

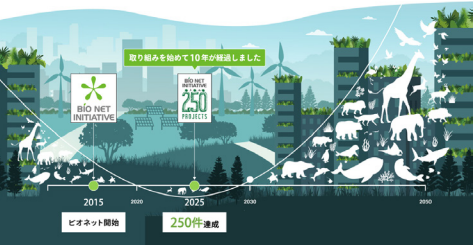
SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！



画像参照：ニホンザルとアメリカザリガニ



鳥や魚など、私たちの周りには、さまざまな生きものがすんでいて、それらは「在来種」と「外来種」に分かれています。まず、在来種とは、その地域に昔からすんでいる生きものや植物のことです。たとえば、日本ではニホンザルやゲンジボタルなどが在来種です。一方、外来種はほかの国や地域からきた生きもののことで、有名なものとアメリカザリガニやブラックバスなどがいます。この外来種が増えると、在来種のすむ場所やたべものがうばわれてしまうことがあります。そして、それが続いてしまうと在来種が減ってしまい、「生態系」という自然のバランスがくずれてしまいます。



画像参照：マンションに導入しているバイオネットイニシアチブ

マンションなどの住まいをつくる会社「三菱地所レジデンス」では、生きものや植物が安心してくらせる環境やすみかを守るために「バイオネットイニシアチブ（BIO NET INITIATIVE）」という取り組みをしています。この「バイオネットイニシアチブ」では、マンションの周りに木や花を植えるときに、その地域で昔から育てきた在来種を多く選ぶことで、環境をあまり変えないようにしています。また、草木の手入れをするときには、なるべく薬品を使わないようにして、鳥や虫たちにとってすみやすい場所を守っています。このように三菱地所レジデンスは、人と自然がいっしょにくらしていけるように、さまざまな取り組みを続けています。

キーワード

在来種

ずっと前から、その地域にすんでいる生きものや植物のことです。その地域の自然を支えている、とても大切な存在です。

外来種

もともとその地域にすんでいなかった生きもののことです。外国やほかの地域から、人が連れてきてしまうことがあります。

生態系

生きものや植物などが、食べたり食べられたりしながら、おたがいにかかわり合っていっしょに生きている、自然のつながりのことです。

対象ゴール



みなさんにできること！

みなさんのまちにすんでいる在来種について、調べてみましょう。

おさらい

- 生きものたちには、ずっと前からその地域にすんでいる「在来種」と、外国やほかの地域からきた「外来種」がいる。
- 外来種が増えてしまうと、在来種のたべものやすむ場所がうばわれてしまうことがある。
- 三菱地所レジデンスでは、「バイオネットイニシアチブ」という取り組みで、地域の生きものたちのすみかを守っている。

メモ